

今週（9月7日から9月11日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、ビッドサイドの調達意欲の減退が目立ち、軟調な地合いとなった。日銀当座預金残高は、450兆円台後半から460兆円程度での推移であった。無担保コールO/Nは、邦銀を中心に▲0.087～▲0.050%のレンジでの出会い。週初の7日は、先週末弱含んだ地合いを引き継ぎ、加重平均レートは▲0.064%と低い水準で始まった。8日以降もビッドサイドの参加者が少なく、週を通して運用サイドの出し残りが常態化した。それを受け、加重平均レートも日を追うごとに低下することとなった。ターム物に関しては、足元O/Nの影響を受けてレートが低下した。一部では9月末越えの資金を確保する動きも見られた。

9日には「日本銀行当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率の見直しについて」が公表され、2020年9月積み期間の基準比率を24.0%（8月：29.0%）とすることが決定された。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、週前半に資金調達サイドが薄くなる場面がみられたことで、▲0.10%台半ば付近での出会いも見られた。概ね▲0.165～▲0.09%のレンジが取引の中心となり、低いレートで推移した。

SC個別銘柄では、5年133～144、10年339～359、20年164～173、30年59～67、40年8～13などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、需給の改善が見られる中、引き続きGCレートが低水準で推移したことが下支えとなり、3M物で▲0.140～▲0.120%、6M物で▲0.159～▲0.140%、1Y物で▲0.150～▲0.148%出合いと、全ゾーンで堅調な推移となった。

8日に実施された短国買入オペは、レートが全般的に低下していたことを受けてか、前回から10,000億円減額され、10,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.006%、按分落札利回較差+0.004%と、無難な結果となった。

9日に実施された6M物の入札は、WI取引において、▲0.159～▲0.157%と強めの出会いが見られたものの、前日の短国買入オペが減額されたこともあって、平均落札利回▲0.1450%、按分落札利回▲0.1330%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.144%出合いと、やや堅調な推移となった。

11日に実施された3M物の入札は、WI取引において、▲0.126～▲0.121%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1178%、按分落札利回▲0.1102%と、小甘い結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.120%出合いと、やや堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は、償還総額は6,700億円程あったものの、発行総額は5,200億円程にとどまる償還超のマーケットとなった。電機・不動産等からは大型発行が実施されたが、小口の案件が中心で、ロールを行わない発行体も多く、9月末を目前に控えて、若干調達が減少している印象であった。市場残高は先週に続いて25兆円台後半で推移した。レート水準に関しては、銘柄間に較差が見られるものの、概ね0%からマイナス圏での決着が中心となっている。特に9月末越えの希少銘柄を中心に、CP等買入オペや新型コロナ対応オペの担保需要等の要因から、目線を切り下げて積極的に玉を確保しようとする動きも観測された。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
9/7（月）	23,089.95	0.040	106.27	△ 0.064	△ 0.161	4,594,400
9/8（火）	23,274.13	0.035	106.30	△ 0.066	△ 0.161	4,607,200
9/9（水）	23,032.54	0.025	105.95	△ 0.070	△ 0.102	4,596,900
9/10（木）	23,235.47	0.024	106.20	△ 0.073	△ 0.095	4,588,300
9/11（金）	23,406.49	0.020	106.15	△ 0.074	△ 0.108	4,578,000

来週（9月14日から9月18日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
9/14（月）	7月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)				
9/15（火）	7月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	流動性供給 5,000億円 9/16発行			米FOMC(1日目) 8月の米鉱工業生産・設備稼働率
9/16（水）	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00～) 8月の貿易統計(財務省 8:50)	TB1Y 35,000億円 9/23発行			米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 7月の米企業在庫 8月の米小売売上高 8月の英消費者物価指数
9/17（木）	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00～) 日銀総裁定例会見(15:30)				英中銀MPC結果発表 8月の米住宅着工件数 8月のユーロ圏消費者物価指数改定値
9/18（金）	8月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 4-6月期の資金循環統計速報(日銀 8:50)	TB3M 75,500億円 9/23発行	流動性供給 4,000億円 9/23発行		9月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/14（月）	200	▲ 26,600	▲ 26,400	国債買入 CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完 国債売現先(米ドル)	 ▲ 900 ▲ 100 100 9,000	12,000 700	20,800	▲ 5,600	源泉税揚げ TB3M発行▲75500償還49100
9/15（火）	0	▲ 1,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	個人向け3Y・5Y・10Y▲1500 個人向け3・5Y償還400
9/16（水）	0	▲ 5,000	▲ 5,000	貸出支援	▲ 49,500		▲ 49,500	▲ 54,500	流動性供給発行▲5000
9/17（木）	0	0	0	CP買入		6,000	6,000	6,000	
9/18（金）	▲ 1,000	9,000	8,000	被災地支援 国債売現先(米ドル)	▲ 800 15,100		14,300	22,300	
週 間 合 計	▲ 800	▲ 23,600	▲ 24,400	—	▲ 27,100	18,700	▲ 8,400	▲ 32,800	

9/14は日銀予想、9/15以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、14日に税揚げが見込まれるものの、ビッドサイドの調達ニーズが弱いことから、引き続き軟調な地合いが予想される。新積み期を迎える16日以降は、基準比率が24.0%に引き下げられることもあり、ビッドサイドの動向が注目される。レポ市場は、積み期を跨ぐ週となり、GC T/Nは▲0.13～▲0.08%程度が予想される。短国市場は、16日に1Y物の入札、18日に3M物の入札が実施予定となっている。短国の需給が全般的に改善している中、レート水準を含め、市場動向が注目される。また、15日に予定されている短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、9月末越えの発行案件のレート形成が注目されるほか、15日にCP等買入オペが6,000億円でオファー予定となっている。9月末を控えてレート低下が予想される中、水準感が注目される。

主要なイベントは、国内では16～17日に日銀政策決定会合、18日に8月の全国CPI、海外では15～16日にFOMC、17日に英中銀MPC結果発表などが予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くことがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入